

閉会の辞

田中 勇武

産業医科大学 産業生態科学研究所、北九州市〒807-8555 日本

プロジェクト研究の段階的推進

プロジェクト研究の段階的推進の概要を図1に示す。

1. 工業用ナノ材料のキャラクタリゼーション

内容：粒径分布、凝集性、化学組成（純度）、濃度、結晶性、繊維長さ/径、
比表面積、形状、生体内耐久性 等

目標：工業用ナノ材料のキャラクタリゼーション手法の提案（測定法・分析法）

2. ハザード評価

ハザード評価システムの概略を図2に示す。

内容：ハザード評価に適合した工業用ナノ材料の調整（特に分散法）

試験管内試験（培養細胞、投与量、評価項目、対照群）

実験動物試験（曝露経路、曝露量、評価項目、対照群）

・ 気管内注入試験 ・ 吸入曝露試験 ・ 皮膚吸収試験

目標：工業用ナノ材料のハザード評価試験法の提案

3. 曝露評価

内容：現状調査、排出・曝露モデル、個人保護具

目標：工業用ナノ材料の曝露レベルを推算できるモデルの提案

4. リスク評価 = (ハザード x 曝露)

内容：不確実係数の小さいリスク推算モデル

目標：ナノ金属酸化物、フラーレン、カーボンナノチューブについてのリスク
評価手法の提案

5. リスク管理

内容：不確実係数の小さなリスク管理モデル

目標：工業ナノ材料のリスク管理手法の提案

